1.私のボランティア活動事始め
2. NWEC での学びが新たな実践の場を創場―「学び」を講座に生かし地域に還元

秋田県　チャイルドラインあきた・日本フェミニストカウンセリング学会
松葉谷　温子（まつばや　はるこ）　75 歳

1.私のボランティア活動事始め

1989 年、(財)秋田県婦人会館は、駅に近い中心街の大通りに面した最新の複合文化施設の 6 階にリニューアルオープンした。

当時私は 40 代の半ば、子育てに余裕ができ、第 2 の個育て期にあり、新任の相談員として、この会館の場が、来る人の力を借りながら、人が溜まるだけではなく、新たな情報や人に触れることで、切磋琢磨して、再び思いを深め強めて流れ出ていく、その流れに勢いをつけるポンプのような役割を果たす「場」にしたいと、新たな事業に意欲を燃やした。

新規事業の 1 つ、女性の社会参加としてのボランティアの養成とその活動支援を担当した。

既にボランティアの導入と活動支援で実績のある国立婦人教育会館への視察研修後、養成講座に 30～50 代の意欲に燃える多くの女性が参加し、秋田県婦人会館を拠点とする国際交流における日本語教室と、国際交流の場を創るオープンクラス、情報を収集発信する情報ボランティアのグループが誕生し、今に到っている。

当時、婦人会館・男女共同参画センターに行けば、何かわくわくするような新しいことが始められると思い多くの人が集まってきた。

私自身も、先駆的な NWEC のボランティア活動から自主的に発展していった社会教育施設ボランティア、更に文化ボランティアの集会に参加しながら多くの人と出会い繋がり刺激を頂きながら、秋田での活動の糧にしてきた。今もささやかながら市民活動を続けていられるのも、NWEC で出会い、繋がり、支え合ってきた仲間と秋田で共に活動してきた仲間の存在があるからと思い、感謝している。

2. NWEC での学びが新たな実践の場を創場―「学び」を講座に生かし地域に還元

NWEC は、私にとっては、常に女性問題・男女共同参画等のその時代の最先端の研究成果や実践について、直接その専門家から学ぶことができる場であり、全国の実践家に出会い、支え合える繋がりを生み出す場であり続けました。またこの学びを地域で活かし、

仲間と様々な講座を企画運営し、自主活動グループの誕生を支援してきました。特に女性問題の進展に伴い、男女共同参画の取り組みが、官と民の協働により大きなうねりとなっていった1990年から2000年にかけて、世界女性会議、「男女共同参画ビジョン―21世紀の新たな価値の創造―」の答申、それらを受けての「男女共同参画2000年プラン・国内行動計画」の策定と、そこに示された基本理念や考え方について直接当事者から学ぶことは、その後の活動や生き方のよりどころとなって来ました。1999年男女共同参画社会基本法も施行され、これらの理念を共有する仲間の支えもあって、2002から2006年、市役所の助役として男女共同参画等を進めるべく、行政に参画する機会を得ました。

この4年間は、私にとって、仲間の代弁者としても、極めて貴重な経験となりました。官を知り、「市民」としてこれまで以上に自分は何をして、共にどう生きるかを考え活動するようになりました。独りの力は所詮一人分でしかなく、それぞれが、その多様性を尊重し、その個性と力を発揮して共有する時と場を生き、それぞれの思いを形にしていくことで歴史は生み出されるように思います。

私は、相談活動、DV被害者支援、講座の企画運営、市民活動を通して、「支援」とは、知識・情報と実践の間で、当事者の思いを尊重し、その人のエンパワメントを応援することであると考えるようになりました。これからも、NWECが、時代・社会の転換期に、確かな情報を発信し、国民の議論のるつぼの役割を担い、地方の活動と学びを支え続けて欲しいと思っています。